〈本郷キャンパス〉
学校法人文京学園
文京学院大学経営学部・外国語学部・保健医療技術学部／大学院／文京学院大学生涯学習センター
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023東京都文京区向丘 2-4-1
☎幼 03-3813-3771

〈ふじみ野キャンパス〉
文京学院大学人間学部・保健医療技術学部／大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806

〈駒込キャンパス〉
文京学院大学女子高等学校／文京学院大学女子中学校
〒113-8667 東京都文京区本駒込 6-18-3
☎03-3946-5301

文京学院

平成 29 年(2017 年)
11月 30日
第 735 号
発行
学校法人文京学園
http://bgu.ac.jp

大学

産後うつ予防啓発 リーフレット・動画を発表

市川准教授

誰にでも起こりうる「産後うつ」を妊産婦さんとその家族に妊娠中に知ってもらいたいという思いから、助産師で本学保健医療技術学部看護学科の市川香織准教授総合監修による、産後うつ予防啓発リーフレット「ママから笑顔がきえるとき」を本学が制作。11月22日にホームページ上で発表しました。

市川准教授の専門は、母性看護学、助産学、母子保健です。

同リーフレットは、本学における社会貢献活動の一環で、外国人向け地震防災マニュアル、合理的配慮事例を表す「WiTH」につづく第三弾です。インフォグラフィックで「産後うつ」に関する基礎知識、パートナーが協力すべきことなどを解り易く解説。

本学ホームページでは、連動した動画も公開されています。

今後、全国の市区町村で活用されることが期待されます。

リーフレット「ママから笑顔がきえるとき」

動画QRコード

大学

今年の東京映画祭でグランプリ受賞 映画監督が来校

トルコ共和国の映画監督、セミフ・カプランオール氏が、11月2日に本郷キャンパスに来校し、GCI生や経営学部公野勉教授のゼミ生など約20名と懇談しました。

同氏は、現代トルコ映画界を代表する監督。自身の半生を元に、一人の男性が壮年期から幼年期までをさかのぼる三部作（『卵』『ミルク』『蜂蜜』）がすべて世界三大映画祭（カンヌ国際映画祭、ヴェネツィア国際映画祭、ベルリン国際映画祭）で上映された監督として、輝かしい功績を残しています。

今回は、7年振りとなる新作『グレイン』で、東京国際映画祭に参加。本学に来校した翌日、「東京グランプリ」を受賞しました。監督は、人類を救う特殊な麦の種を探し求める物語に学生たちを重ね、「未来を創造する種となって大きく成長してほしい」と激励の言葉を贈りたいと希望。その想いを受けて、本学が懇談会を実施しました。

監督は、大学時代から現在に至るまでの生き方や映画製作について、苦労話を織り込みながら講話。学生からは「世界に認められる映画とは?」「映画は人種・宗教・国を超えられるか?」などの質問が次々と出ました。監督はそれぞれ「皆が好きになる映画を創ろうと思っても、そうはならない。例えば、現代の映画はすぐに忘れられてしまうが、小津安二郎監督の作品のように、親子の情愛を素直に伝える作品は、70年後の今も皆に観てもらえる」「それらを超えて、人類は新しい経験をできる。映画はビジュアルでも音響でもなく、その中の時間を創る技術」など珠玉の言葉で回答。

最後に監督は「急ぐことはない。諦めずにじっくりと取り組めば、願いは叶う」と学生たちを力づけました。

セミフ・カプランオール監督（前列中央）を囲んで

大学

GOOD DESIGN AWARD 2017

「地震 防災マニュアル（文京区版）」が「グッドデザイン賞」受賞!

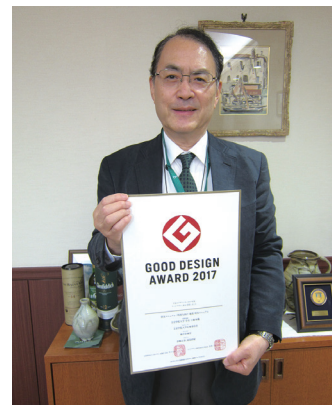
本学が外国人向けに制作・配布した「地震 防災マニュアル（文京区版）」が、「2017年度グッドデザイン賞」を受賞しました。

同賞は、様々に展開される事象の中から「よいデザイン」を選び、顕彰することを通じ、私たちのくらしを、産業を、そして社会全体を、より豊かなものへと導くことを目的とした公益財団法人 日本デザイン振興会が主催する「総合的なデザインの推奨制度」です。

今回受賞したマニュアルの特徴は、地震発生時に外国人が適切な対応ができるよう「初動」に絞り、瞬時に内容が理解できるよう「インフォグラフィック」を用いていることです。英語版・中国語版の2種類を無料配布している他、web上では日本語版を加えた3種類を公開しています。

審査員からは「地震発生から5分間の行動に絞り、外国人が災害弱者にならないよう、言語情報が少なくても理解できるインフォグラフィックで作成。地図を変えれば、文京区以外にも適用できる構成のため、他の地域にも広がっていくことを期待」という評価をいただきました。

今年は4,495件の応募から同賞に選ばれた1,403件が、11月1日から5日まで、東京ミッドタウンに展示されました。


賞状を持つ工藤秀機学長・教授

「地震 防災マニュアル（文京区版）」

大学

大川助手所属研究チーム 研究結果が学術研究誌に

大川助手

保健医療技術学部の大川孝浩助手が所属する研究チームが「歩行時の足と骨盤の間の相対的な捻じれ量(角度)が小さいと、下肢に生ずる捻じれストレスが大きくなる」ことを明らかにし、この研究成果が学術誌「GAIT&POSTURE」(Vol.58、10月)に掲載されました。共同研究者は、東京農工大学の跡見順子客員教授、帝京科学大学の跡見友章准教授、JAXAの長谷川克也研究員。

同研究チームは、足裏と床面との摩擦によって生じるFree Moment（以下FM）という指標に着目。FMは、脛骨の疲労骨折や変形と関係があることが明らかになっており、FMが大きくなる健常者の歩き方を三次元動作解析装置で解析しました。

その結果、歩行の蹴り出しの際に骨盤がよく回旋していないと下肢には大きな捻じれストレスが生じることが判明。それにより、歩行時に身体に関わるストレスを考慮する際は、運動を全身でとらえて評価することの重要性が示唆されました。

同研究を継続することで、変形性膝関節症をはじめとした疾患特有の歩き方を解明し、ロコモティブ症候群予防や、疾患に対するリハビリテーション介入法の一助になることが期待されます。

副学長・人間学部教授
人間学研究科委員長

松村和子

この夏、ふじみ野キャンパスには、ロンドン芸術大学から留学生6人がやってきて、心理学科の講義を受けたり、心理実験の装置を作ったり、川越の街を歩いたりして、川越の特色を生かしたウェイファインディング（道案内、道しるべ）を作り上げました。学生たちはお互いに日本語と英語と中国語と効果抜群の?ジェスチャーで有意義な一カ月を過ごしたようです。

この活動には、川越市の市役所の方々、町の商店街の方々が温かくサポートしてくださいました。

11月には、ふじみ野市との共催で、ふじみ野アートフェスタを開催し、本学の教員が作詞、作曲した手話歌、手話ダンスを学生と近隣のふじみ野高校の生徒さんが披露し、会場では、聴覚障害のある方や支援者の皆さまも一緒に歌って踊ってくださいました。

アートフェスタの開催までに、何度も市役所の方やふじみ野高校の生徒さんたちと、会議を重ねており、私も研究室の前の廊下で、度々高校生に遭遇いたしました。

最近では、附設の幼稚園で環境教育研究センターの主催するスウェーデン発の環境教育「もりの教室」が開かれています。ムッレは5～6歳児、その下のクニュータは3～4歳児用の活動です。学生が枯葉だらけになって授業に現れるので、活動日だったと分かります。

11月5日にはエコ田んぼの収穫祭もあり、これらの活動には人間学部・保健医療技術学部の学生が参加しています。

こうして見ると、ふじみ野キャンパスでは、なかなか多様性に富んだ活動をしているようです。しかし、ここは残念ながら都心からは離れていて、駅からもスクールバスという立地です。大学の都心回帰が目立つ中で、このふじみ野という地を生かして活躍していくためには、地域の学校や企業、行政、或いは子育て中の親御さんたち、高齢者や障害を持つ人々のために、人間学部や保健医療技術学部の持つ学識や知の財産を役立てて、「文京があってよかった」と思っていただけるといいですね。問題解決・実践型のキャンパスであることをもっとアピールしていければと思います。

Green Spirits

ふじみ野キャンパス:ダイバーシティの躍動!

大学特集「輝く卒業生」

本学の卒業生たちが、子どもオペラ運営・海外での起業・文学界・地域興しなど国内外の幅広い現場で力を発揮し、大活躍しています。

「オペラ入門キッズ」代表・横山亜由美さん（平成10年経営学部卒業／平成12年大学院経営学研究科修了）

「大学では、経営の基礎となる理論を水越ゼミで学び、元国税専門官の税理士事務所でのアルバイトでは実務を経験することができ、その両方がとても楽しく、知識を得られることに夢中になっていた」と当時を振り返る横山さん。

大学院修了後は、ライフスタイル産業の総合支援事業を行う企業に創業メンバーとして入社し、翌年には同社取締役マネジメント事業部長に就任。その後、民事再生法適用会社となった大手洋菓子会社の企業再生プロジェクト等に携わり、平成14年に同社取締役に就任するなど、手腕をフルに発揮しました。その間、本学経営学部同窓会「あやめ会」の会長、本学評議員を兼務。平成16年、ご家族の介護のために退社し、現在は3人のお子さんの子育てに奮闘すると共に、東京オペラ協会の協力を得て、昨年「オペラ入門キッズ」を立ち上げ、地域の子どもたちの情操教育にもパワーを発揮しています。

「オペラ入門キッズ」代表・横山亜由美さん（平成10年経営学部卒業／平成12年大学院経営学研究科修了）

時期を同じくして、同協会欧州巡演・ボルトガル公演に3人のお子さんと共に舞台に立ち、ドイツ公演では裏方として活躍。昨年は、埼玉県の万燈祭りの彩の森スタジオに立ち、入間市の姉妹都市ドイツのウォルフラーツハウゼン市からの訪問団への歓迎の意を込めて、子どもたちがモーツアルト作曲オペラ『魔笛』より『きれいな音だ』ドイツ語合唱に挑戦。これは今では「オペラ入門キッズ」の定番となっています。

ボルトガル公演にて（左から）倩文君、横山さん、寛文君、由莉奈さん

万燈祭りでドイツ語合唱

横山さんは「これからも、キッズたちの個性豊かな花を咲かせられるようにサポートしていきたいと思います」と抱負を語り、後輩に次のようにエールを贈りました。

「ひとつの組織を立ち上げた時に基本となったのは、経営学で学んだ知識でした。企業でM&Aを手掛けた時も、大学・大学院の6年間で学んだ知識を基礎としてどう活用できて、日々勉強しました。自分が頑張るために色々な人と出会い、100%自分の味方をしてくれるパートナーを見つけてください。『人が生まれながらにして持つ二つの運』天運・人運は勇気を持って手を伸ばさなければつかめないということも伝えたいと思います」

★次回公演＝2018年3月17日（土）入間市産業文化センター午後6時開演「第22回ドラマフェスタin入間」特別参加作品「オペラ入間キッズ ユニバーサルデザインオペラ『魔笛』」

パリのフロリスト・大類優子さん（平成12年経営学部卒業）

卒業後、大手スポーツクラブの法人営業として社会の荒波にもまれ、どこでも生きている度胸と力をつけた大類さん。「自分が本当にしたいことは何か」の答えを、憧れの世界感がある「パリのフロリスト」に見出しました。

大類さんは32歳で渡仏し、まずは何店舗かの花屋での無給研修二つからのスタートを切りました。言葉の壁も努力で乗り切り、やがて、フランス人と同じ条件で働けるようになりましたが、東京での仕事中心であった生活を送っていることに気づき、忙しいことで人生が充実している幻想にとらわれてはいけないと実感。人生を謳歌することにする中で、十分に積んだ経験と技術を活かし、個人事業主制度を利用して2015年にフリーランスのフロリストとして正式に独立しました。

La plumeと名づけた大類ブランドの感性豊かな仕事が認められ、パーティやウェディング会場の飾りつけ、フラワー作成等、様々な仕事をこなす日々ですが、「フランス語・英語の向上は勿論のこと、より多くのウェディング業界の方々とのパートナーシップを結んでいきたい」と抱負を語りました。

大類さんは、これらのプロセスを11月6日に本郷キャンパスで開かれた講演会で語り、後輩たちに次のようにアドバイスしました。

「人生の中で好きなことを勉強し、様々な経験ができるのが大学時代です。社会に出てからは、大学の講義や櫻澤ゼミで学んだことにより、論理的思考のベースを作り上げることができました。自分が強くやりたいと思うことを諦めず、まずはそこに向かってください。できれば日本から一歩出てみて。今、自分がいる所しか知らないはもったいない！　異文化や考えに直接触れることで、改めて自分自身を見直すことができると思います」

本学で講演する大類さん

ウェディングの広告用撮影のデコレーション（パリのホテルにて）

小説家・堀井拓馬さん（平成21年人間学部心理学科卒業）

平成23年に「第18回日本ホラー小説大賞」（主催＝株式会社KADOKAWA、一般財団法人 角川文化振興財団）の「長編賞」を『なまつま』で受賞した堀井さん。平成24年に『夜波の鳴く夏』、そして、5年の沈黙を破り、今年『臨界シンドローム 雪丸十門診療奇談』を上梓しました。

堀井さん

在学中、中山ゼミ生として、また、環境教育研究センターメンバーとして地域活動や、被災地支援活動に明け暮れた中潟さん。「その中でも一番やった感があるのは、3年生の時に福島県で実施した『文京ワインプロジェクト』の収穫ボランティアツアーです。理由は、その時に取ったアンケートに、初めて福島県に来た参加者が『復興や農業、そして風評被害といった社会問題に対しての考え方や関心が強まった』という回答をしていたからです」と当時を振り返ります。

卒業後、すぐに福島県浪瀬町に移住した中潟さんは「今年一年は一生懸命なんでもやってみようと思います。僕の存在を、住民に認知していただけるよう常に緊張感をもって生活しています。現在、逢瀬町『園芸振興センター』に勤務しながら、休みの日は逢瀬町の様々なところに顔を出しています。その他、移住や農村、復興についてのイベントを主催などをしています」と近況を語っています。

「郡山逢瀬ふじみ野ne.文京スマイル」を模索時、中潟さんが学生時代からお世話になっている郡山市職員から、市民団体向けの補助金事業の情報があり、団体設立にこぎ着けました。

これまでの事業として、6月に「なぜ若者は里山に恋をするのか」をテーマに、移住者雑誌『ソトコト』の指出一正編集長による講演会を開きました。8月には「フリーソーリスム」を企画し、中山ゼミ生、OB・教員、ふじみ野高校生徒など総勢30名近い参加があり、逢瀬の自然を満喫しました。11月には逢瀬町への感謝と笑いを届けるために「逢瀬寄席」と名づけた寄席イベントを開催。「とれも『中潟を知ってもらう』ことが目的です」と着々と立ち上げ団体の浸透を図っています。

中潟さんの悩みのタネ「寒さ」。しかし、夢と現実などを語り合える仲間たちが逢瀬に出向き、中潟さんの逢瀬の出間と出会う瞬間、心が熱くなりワクワク感でいっぱいになるそうです。この活動が、若者にとっての逢瀬や里山への入り口になることを夢見て、中潟さんは目下奮闘中です。後輩に向けて「自分が頑張っていることは、何があっても歯を食いしばって頑張り続けてください」とメッセージを贈りました。

講演会で話す中潟さん

満席の「逢瀬寄席」

高校「英語スピーチコンテスト」ハイレベルな闘い

「第45回英語スピーチコンテスト」が11月15日、駒込キャンパス・ジャシーホールで開催され、ハイレベルな闘いが繰り広げられました。

横山遥香さん（2桜）と、伊藤咲季さん（2藤）の司会により、高校生徒会長の林花音さん（2梅）の開会挨拶でコンテストがスタート！　今年は、Recitation（暗唱）部門6名、Speech部門GroupA（一般生徒）3名、GroupB（帰国生）2名、Presentation2組（審査対象外）が出場。島田昌和理事長、佐藤芳孝統括校長、清水直樹高等部校長はじめ各教員、保護者が見守る中、ハイレベルな英語力を競い合いました。

審査員は、College of St. Benedict/St. John's University（セント・ベネディクト/セント・ジョンズ大学）のDr.Jeanmarie Cook、本校教員のMs.Margaret WorkmanとMr.Allan Nisbet。

また、本校の英語科アドバイザーとして約4年間、英語科教員対象のワークショップ講師を担当している国際教養大学教授のDr.Patrick Doughertyがオブザーバーとして出席しました。

会場には、高2生徒が参集。大会の様子は、高1・3年の各教室にも放送され、仲間の英語に熱心に耳を傾けました。

厳正なる審査の結果、次の生徒が入賞しました。

【Recitation】1位＝田崎りか（1萩）2位＝髙梨奈（1梅）
3位＝澤田琴美（1檜）

【Speech】（GroupA）1位＝小林菜音（2桜）2位＝鈴木葉菜（2藤）3位＝塚田紗來（1桜）
（GroupB）1位＝稲橋祐佳（2藤）2位＝胡恬潤（1桜）

なお、稲橋さんには、島田理事長より同コンテストの最高賞「The Shimada Prize」が贈呈されました。

各審査員からは、スピーチ内容の素晴らしさと表現力への称賛、ねぎらいの言葉が贈られました。

また、この夏、セント・ベネディクト大学の英語集中講座を受講した生徒による次のプレゼンが行われ、学習の成果が垣間見られました。

【The Difference of American & Japanese Businessman】
堀田采花（1桜）山中望未（同）

【The Popular Mountain in Japan & Italy】
岩村美月（2梅）中川麻子（2藤）

入賞者を囲む出場者と関係者

中高の伊藤宗子教諭を悼んで

中高の教科・伊藤宗子（むねこ）教諭が11月7日、永眠されました（享年40歳）。駒込キャンパス2階スペースには、教員仲間や生徒たちが手向けた花に囲まれた祭壇が設けられ、生徒たちは設置されたノートに、伊藤教諭への想いを書き綴りました。生前、伊藤教諭が授業計画を下書に書き込んだノートもあり、授業に対する熱意がうかがえました。

11月13日に行われた告別式では、水上茂中高一貫部校長、菅沼美音中学生徒会長による弔辞と お別れの言葉が伊藤教諭に捧げられました。

弔辞

伊藤宗子先生のご霊前に謹んで哀悼の辞を捧げます

伊藤先生こうして先生の ご遺影の前に立つことになり誠に残念でなりません　これは同じ職場で喜びや辛さを分かち合ってきた仲間としての思いです　今日ここには参列できなかった職場のみんなも全く同じ思いであると思います

伊藤先生　あなたは教師をするために生まれてきた人だと私は思っています

先生の温かい指導で何人の生徒が励まされ 明るさを取り戻し 元気に学校生活を送りそして巣立っていくことが出来た伊藤先生を訪ねてる多くの卒業生のその顔から確かな成長と先生が生徒に寄り添い注がれた愛情を肯に感じておりました

伊藤先生は 平成十二年より数学の教員として本校の教壇にたたれました 数学の教科指導においては 生徒にいかに解りやすくとうしたら力をつけさせる授業が出来るか多くの研修会に参加し自らも多くの研究会を立ち上げ研鑽を積まれておられました

またクラスの指導においては生徒の良いところを見つけ出し毎日 クラス通信」を発行し生徒と家庭 そして学校の架け橋を作っておられたことは誰しもまねることの出来ないことと職場の誰もが伊藤先生の努力に敬意を表していました

私自身あまりにも早すぎる先生の訃報を耳にしたとき まだ直など 心に大きな穴が空いてしまったような喪失感と三年桃組の教室の前の廊下を通ると教室中から伊藤先生が出てこられるような気さえしています

よって ご遺族の皆様のお心を思いますとお慰めの言葉も見つかりません

ですが私達がここで力を落としてしまっては 伊藤先生もきっと安心できない事と思います

先生が本校に残してくれた生徒を育む心の大切さを必ず守り続けて行くことを誓います

今日も先生の最後の卒業生となる三年桃組の生徒達は頑張って黒板に向かっています

先生が生徒達に残された誠実で勤勉にそしてすべての人に優しさをもって接することのできる仁愛の心は間違いなく生徒達の心の中に永遠に生き続けると思います

残された卒業までの四ヶ月 三年桃組は 学年主任の丸山先生と椎名先生が確かに伊藤先生から渡されたタスキを引き継ぎました　どうかご安心下さい

そして来年の三月二十二日の卒業式には成長し中学を巣立つ様子を是非伊藤先生にも見て欲しいと思います

最後になりますが娘さんに物心が付いても 学校を訪ねてくれる時があるならば私が「あなたのお母さんは本当に素晴らしい先生で素敵な女性でした」と話をして聞かせてあげます

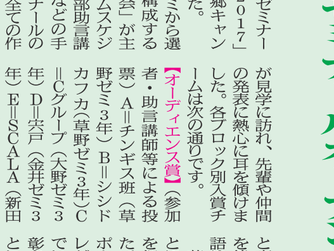
伊藤宗子先生本当にありがとうございました

どうか安らかに

教職員を代表し心よりご冥福をお祈りいたします

平成二十九年十一月十三日

文京学院大学女子中学校高等学校
中高一貫部　校長　水上　茂



お別れの言葉

文京学院大学女子中学校　生徒会長菅沼美音です。

生徒を代表して伊藤宗子先生にお別れの言葉を申し上げます。

伊藤先生は、四月から私たち三年生の先生になり、三年桃組の担任の先生になられました。

私は、菊組でしたが、授業を通してお世話になりました。

伊藤先生は、とてもやさしくて、何事にもひとつひとつ丁寧に接してくれました。

数学検定を受検する時に、分からない問題を質問したら、とても丁寧に解説してくださいました。

また、桃組の友人に聞くと、根気強く叱ってくれたことが一番心に残り、感謝しているそうです。

また、四月には、クラス全員が一冊ずつノートをもらい、先生と交換日記をしていたそうです。

先生からのお返事は、みんなの心にずっと残っていくと思います。

突然の悲しい知らせに、私たち中学三年生は言葉を失っています。

先生と過ごせる時間が突然絶たれてしまったことに悲しみがこみ上げてきます。

しかし、伊藤先生と過ごした日々は、私たちまた、ご卒業なさった先輩方の心の中で決して褪せることはありません。

伊藤宗子先生、本当にありがとうございました。

平成二十九年十一月十三日

文京学院大学女子中学校
生徒会会長　菅沼美音

大学「ゼミナールオープン大会」開催

経営学部恒例「ゼミナールオープン大会2017」が11月11日、本郷キャンパスで行われました。

同大会は、各ゼミから選抜された学生で構成する「ゼミナール協議会」が主催し、大会のタイムスケジュールの作成、外部助言講師の招聘、教室などの手配、出場するゼミナールの取りまとめなど、全ての作業を学生が担う年に一度のゼミナール研究発表会です。

今年はA・Bブロック「経営部門」に12ゼミ、C・Dブロック「経営会計部門」に11ゼミ、E・F・Gブロック「マーケティング部門」に19ゼミの計42班が参加。専門性と個性溢れる熱いプレゼンを展開し、切磋琢磨し合いました。各教室には、1年生やプレゼンを終えたチームが見学に訪れ、先輩の仲間と高橋和也副会長は、大会の発表に熱心に耳を傾けました。各ブロック別入賞チームは次の通りです。

【オーディエンス賞】（参加者・助言講師等による投票）A＝チンギス班（草野ゼミ3年）B＝シンドカフカ（草野ゼミ3年）C＝CグループA（大野ゼミ3年）D＝宍戸（並井ゼミ3年）E＝SCALA（新田ゼミ3年）F＝ふるふれ（新田ゼミ3年）G＝カラダAhealth（新田ゼミ3年）

【敢闘賞】A＝Potato（鈴木ゼミ2年）B＝きてるくま（藤田ゼミ2年）C＝バラ（藤田ゼミ2年）D＝白熊（草野ゼミ2年）E＝つっちー班（新田ゼミ2年）F＝夜活（馬渡ゼミ2年）G＝赤飯（馬渡ゼミ2年）

同協議会の荒木裕樹会長と高橋副会長は、大会を終えて次のように想いを語りました。

荒木「引継ぎは、役割ごとに行うため、全体の動きを把握することが大変でした。僕たちはまとめ役・サポート役の仕事があり、プレゼンには参加できませんでしたが、友だちの班が表彰される場面を見て、裏方として人のために頑張って良かったと思いました。会長としてメンバーに役割を振ったり、ハプニング発生時に対応したりしたことで、物事を見極める力がついたように思います。今回、終了が早かったので、もっと多くのゼミが参加できるようになるとよいと思います」

高橋「終了後、関係者から協議会メンバーに対して大きな拍手をいただき、感動！　この大会を運営して本当に良かったと思いました。僕たちは高校時代から一緒なので、最後の大きな大会も一緒にできて良かったなと思います。今後、この大会が全学部に広がると面白いと考えています。色々な観点から助言を頂くために、講師数を増やすことができれば、さらにゼミ活動が活発になると思います」

経営会計部門の発表

経営部門の発表

荒木会長（右）と高橋副会長

マーケティング部門の発表

高校
SGH（スーパーグローバルハイスクール）アソシエイト
アジア5大学の学生と交流

本校は、文科省より「SGHアソシエイト」の指定を受けています。生徒たちは、校内外の専門家の指導を受けて、グローバルな研究・活動を展開しています。今回は、本校SGH教育センターの佐藤泰正教諭から、アジア5大学の学生との交流の報告がありました。

10月28日、アジア5カ国シンガポール、マレーシア、タイ、台湾、中国（香港）から、それぞれ国を代表する大学（シンガポール国立大学、マレーシア・サバ大学、チュラロンコン大学、国立台湾大学、香港大学）の学生たちが来校しました。これは、国際教養コースのSGHアソシエイト・カリキュラムにおけるグローバル・リサーチとして、日頃アジア研究（通称アジ研）でご指導いただいている東京海洋大学の小松俊明教授主催『探検隊プロジェクト』の一環として実現したものです。

当日は3部構成で、第1部は、本校国際教養コース2年生の生徒たちによるホールでの歓迎会。学校紹介や校歌を披露した後に、チアダンス部による演技や、有志の指示の下、全員で恋ダンスを踊って盛り上がりました。

第2部では、5つの教室に分かれて、各国の学生が自分たちの国の文化や大学での研究などについてプレゼンテーションしました。専門的な研究内容も含めた英語でのやりとりに、生徒たちも臆せず質問を投げかけていました。その一つ、「毎日どれ位勉強しているのか」という質問に対しての「寝ている時と食事をしている時以外はいつも勉強しています」という回答には、生徒たちはびっくりするとともに、これから本格的な学問の世界に飛び込む際の厳しさにも思い至ったようです。

第3部は、アジ研生徒たちとの交流。ランチを一緒に摂った後、アジアの学生2名＋本校生徒2名＋東京海洋大の学生2名で班を作り座談会を実施しました。アジアの学生たちもばらばらに分かれたので、みんな初対面。小松教授からは「Only English」のルールを出され、最初は戸惑っていた本校生徒たちも、気さくで優しい大学生のお陰で、最後にはすっかり打ち解けて、それぞれ意見を交えることができました。

生徒たちは今回の行事を通じて、異なる言語や文化を有するアジアの人たちとも、共通語としての英語さえあれば、お互いに意思疎通ができるという事実に、改めて気がついたようです。また実際に、生徒たちの、まだ充分でなくとも、自分の気持ちを英語で表現して楽しむ姿勢に、これからの日本の将来の姿が映し出されていたようにも思えます。

今回来校した大学は、みな世界大学ランキングで上位に位置する大学ばかりです。例えば、タイのチュラロンコン大学など、生徒には馴染みのない学校でしたが、ランキング上では慶應義塾大学や早稲田大学よりも上位に位置していることを伝えると、生徒たちは一様に驚いていました（ランキングにもよりますが、シンガポール国立大学や香港大学は、東京大学や京都大学と同列、もしくはそれらを超えるところに位置しています）。こういった、世界有数の知性と直接やり取りすることは、生徒たちにとっても大きな刺激となったようです。

ジャシーホールに参集したアジアの学生たち

アジアの学生によるプレゼン

大学
学生が自主上映会を開催

11月10・11日、外国語学部・甲斐田万智子教授の「国際文化協力」などの授業を履修した学生有志が、女の子のエンパワーメントをテーマとする映画『I AM A GIRL』の自主上映会を昨年に引き続き本郷キャンパスで行いました。

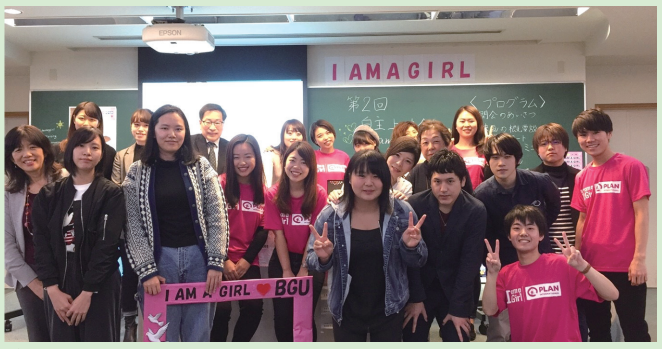
エンパワーメントとは、社会・組織の構成員一人ひとりが発展や改革に必要な力をつけること。同映画は、世界の女の子たちが、それぞれの生きる場所で、差別、虐待、病気など個々が抱える悩みや問題を通して成長する姿をドキュメンタリーとして描いた作品です。

監督は、数々の賞に輝くオーストラリアのレベッカ・バリー氏。カンボジア、カメルーン、アフガニスタン、アメリカ、パプアニューギニア、オーストラリアの6カ国6人の女の子の日常を映し出し、それぞれの環境や文化の中で困難に立ち向かいながら「大人の女性」に成長していく物語です。

例えば、カンボジアの14歳の女の子は、幼子と病気の母親を抱えながら売春にてこの日常から逃げる選択をします。

その他、薬物や暴力、ギャングがはびこるアメリカの貧民街での生活に溺れることなく、「ミュージシャンになる夢」に向かって突き進む16歳の女の子の強い生き方など、6通りの人生が浮き彫りにされ、観る者の心を打ちます。映像提供は、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン。

同上映会の代表・深瀬麻有子さん（外国語学部2年）は次のように想いを語りました。「昨年の上映会メンバーと、甲斐田先生の授業を受けてガールズエンパワーメントに興味を持った学生が集まり、今回の上映会を行いました。広報活動を外部に広く行わなかったため、来場者の多くは本学の関係者でしたが、興味を持って来てくださったこと、上映後のアンケートに、今後も続けてほしいという要望が多くあったことを大変うれしく思いました。女性だけが女性の権利を訴えるのではなく、男性からの理解が大切であるため、多くの男性にも興味を持ってほしいと思います。私たち学生ができる国際協力として、様々な問題に興味関心を持ち、行動に移していくことを今後も続けていきたいと考えています」



自主上映会に参加したメンバー

想いを語る深瀬さん

大学
「森のクニュータナ」に園児90名参加

五感を使って身近な自然に触れる体験を通じて、自然の豊かさを学ぶ3～4歳児対象のプログラム「森のクニュータナ教室」（主催＝環境教育研究センター）が、11月20・21・27・28日にふじみ野キャンパスで行われました。

参加したのは、ふじみ野幼稚園の年少児5クラス90名。ステップ1では、まず、クニュータナ教室の案内人・テントウムシのニッケさんと仲良くなった後、大学生から体験コーナーの紹介があり、最初にクルミキャッチを体験。ステップ2では、落ち葉キャッチ、葉っぱ・虫の観察、坂を転がる、松ぼっくりを並べて身長を測るなど、身体や感覚を使ったコーナー遊び。これらにより、五感と観察力、バランス感覚などを磨きました。ステップ3のまとめは、動の後に静の時間。全身で自然を感じながらごろんと寝転がり、紙芝居「ごろん」を見た後、クルミが入った学生手作りのポーチをプレゼントされ、大喜びしました。

松田直之さん（児童発達学科2年）は「昨年も参加して、とても楽しかった上、実習で学んだ知識を実践できる場でもあるので、今年も参加しました。紙芝居を担当しましたが、立ち位置や子どもの気持ちを乗らせる言葉がけが課題。子どもたちの気持ちになって言葉がけができるようになりたいと思います」と課題と抱負を語りました。川島侑未さん（同）は「ポーチを90個作るのが大変でした。子どもは、こちらが準備した以外の新しい遊びを展開するので、その感性に驚きました。将来、子どもと関わる仕事を希望しているので、実習以外でも子どもと関わることができて、とても勉強になりました」と充実感を滲ませました。

寝転がって紙芝居

学生も童心にかえって葉っぱ散らし

訂正とお詫び

第734号（10月31日号）に次の間違いがありました。訂正してお詫びいたします。

★1面「鏡友会設立60周年を祝う」3段目の「水上勉中高一貫部校長」は「水上茂中高一貫部校長」です。

★2面「大学祭華やかに」4段目の写真説明「中央学院大学の皆さんと」は「中京学院大学の皆さんと」です。

大学
農業インターンシップ「収穫祭」で報告会

「追分通り三面大黒天商栄会」と群馬県前橋市富士見町による"産官学"三者の農村部都市交流プログラム「農業インターンシップ」が毎年行われています。5月の朝市・産直販売からスタートし、6月の田植え、8月の加工体験、10月の稲刈りと文京祭でのもったいない野菜販売、11月の産業祭と順調に進み、11月12日、収穫祭と商栄会まつりをもって無事に終了しました。

今回のインターンシップ生・外国語学部3年の（写真左から）長谷川彩花さん、玉那覇麗華さん、熊谷理紗さん、毛利実優さんが、B'sダイニングで行われた収穫祭でこれまでの活動について発表。「産直販売の野菜が安価で、鮮度や質が高いこと」「初めての田植えで感じた土の感覚」「現地でのソーセージ作り体験」「稲刈りのコツ」など驚きや発見に溢れた内容に、商栄会や向丘追分町会、富士見町の伝次平倶楽部の面々から温かな拍手が贈られました。

さらに4名は「野菜の植え方や収穫方法には全て意味があることを知りました。さらに多くの学生に農業に興味をもってもらうため、SNSのインスタグラムのアカウントを作成し、この事業専用のハッシュタグを決めて発信することで、よりこの活動を理解できるようにしたい。また、野菜の収穫方法やレシピをバスの中で参加者に配布したい。この事業をより活性化させていきたい」などの提案について、熱く語りました。

商栄会まつりでは、本学の吹奏楽部が心を込めて演奏し、インターンシップ生が景品を選んだ抽選会では、会場は大盛り上がり。学生パワーがフルに発揮された一日になりました。

活動報告を行ったインターンシップ生

吹奏楽部のパワフルな演奏